

製品安全データシート

1. 製品説明及び会社情報

製品説明
製品名 : 防錆剤 NAGR-DRY

種類 : 気化性防錆剤
主な用途 : 鉄・金属系製品、鉄・金属素材などの防錆用

会社情報
会社名 : 旭エンジニアリング株式会社
住所 : 〒553-0002 大阪府大阪市福島区鷺洲4-4-3
担当者 : 管理部 TEL番号:06-6452-5811
緊急連絡先 : 同上 FAX番号:06-6452-5770
作成日・改定日 : 令和3年1月22日

2. 危険有害性の要約(1)

【GHS分類】

物理化学的危険性

・火薬類 : 分類対象外
・可燃性/引火性ガス : 区分1
・可燃性/引火性エアゾール : 分類対象外
・支燃性/酸化性ガス : 分類対象外
・高圧ガス : 分類対象外
・引火性液体 : 区分3
・可燃性固体 : 分類対象外
・自己反応性化学品 : 分類対象外
・自然発火性液体 : 分類できない
・自然発火性固体 : 分類対象外
・自然発熱性化学品 : 分類できない
・水反応可燃性化学品 : 分類対象外
・酸化性液体 : 分類できない
・酸化性固体 : 分類対象外
・有機過酸化物 : 分類対象外
・金属腐食性物質 : 分類できない

健康に対する有害性

・急性毒性(経口) : 区分外
・急性毒性(経皮) : 区分外
・急性毒性(吸収:ガス) : 分類対象外
・急性毒性(吸収:蒸気) : 分類できない
・急性毒性(吸収:粉塵:ミスト) : 分類できない
・皮膚腐食性・刺激性 : 区分3

・眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2B
・呼吸器感作性 : 分類できない
・皮膚感作性 : 分類できない
・生殖細胞変異原性 : 分類できない
・発がん性 : 分類できない
・生殖毒性 : 分類できない
・特定標的臓器毒性(単回暴露) : 分類できない
・特定標的臓器毒性(反復暴露) : 分類できない
・吸引性呼吸器有害性 : 区分1

環境に対する有害性

水生環境急性有害性(急性) : 区分2
水生環境慢性有害性(慢性) : 区分2

GHSラベル要素



〔注意喚起語〕

危険

〔危険有害性情報〕
危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
引火性液体及び蒸気。
飲み込むと有害。
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
呼吸器系、神経系、腎臓、全身毒性、中枢神経系の障害
重篤な皮膚の薬傷・目の損傷。
眠気及びめまいのおそれ。
遺伝子性疾患のおそれ。
発がんのおそれ。
長期又は反復ばく露による肝臓、副腎の障害のおそれ
長期的影響により水生生物に有害

取扱注意

《安全予防策》

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温体/直射日光の当たる場所のような着火源から遠ざけること。一禁煙。
加圧容器: 使用後も含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
裸火または高温の発熱体に噴霧しないこと。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
適切な保護手袋/保護眼鏡/保護マスク/保護面/保護衣を着用すること。
取り扱い後はよく手洗いすること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

《応急措置》

吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡すること。
 目に入った場合は多量の水で洗った後、出来るだけ早く医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合は多量の水と石鹸で洗うこと。
 衣服等に付着した場合はその汚れをよく落とすこと。

《保管》

容器を密閉して換気の良いところで保管する。
 旋錠して保管すること。
 日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
 涼しい所／換気の良い場所で保管すること。

《廃棄》

内容物／容器を各都道府県／市町村の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

3. 組成及び成分表

成分及び含有量(危険有害物質を対象)

成分名	CAS No	含有量(wt%)	化学式	官報公示整理番号	
混合物		53.0		化審法	安衛法
脂肪酸とアミノ酸の反応生成物	(註)	1~5		既存(註)	既存
イソパラフィン炭化水素	(註)	45~50		既存	既存
ノナン	111-84-2	0.5~3.0		(2)-9	—
LPG		47.0			
プロパン	74-98-6	10~15	C3H8	(2)-3	
ノルマルブタン	106-97-8		C4H10	(2)-4	
イソブタン	75-28-5	35~40			

(註)弊社ノウハウに係る3事項のため非公開

4. 応急処置

- 目に入った場合 : 直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
 コンタクトレンズを使用している場合は、可能であれば取り除いて洗顔する。
 出来るだけ早く医師の診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布で素早く拭き取る。
 : 大量の水及び石鹸または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。
 溶剤、シンナーなどは使用しないこと。
- 吸入した場合 : 外観に変化が見られず、痛みがある場合には医師の診断を受けること。
 : 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、
 暖かくし安静にする。呼吸が不規則あるいは止まっている場合には人工呼吸を行う。
 嘔吐物は飲みこませないようにする。直ちに医師の手当てを受けさせること。
- 飲み込んだ場合 : 蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、
 直ちに医師の診断を受けること。
 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
 : 嘔吐物は飲みこませないこと。
 : 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 消化薬剤(二酸化炭素、泡、粉末、乾燥砂)
- 使用してはならない : 棒状水
- 火災時特有の危険有害性 : 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
 燃焼ガスには一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、煙の吸入を避ける。
 内溶液は極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。
 : 作業は風上から行い、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 : 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
 : 指定の消火剤を使用すること。
 : 高温にさらされる容器は水等を掛けて冷却する。
 : 容器は高温で破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を充分に取ること。
 : 消火者は必ず適切な保護具(耐熱性着衣、保護眼鏡等)を着用し、有毒ガスが発生する為、空気呼吸等を装備する。

6. 漏洩時の措置

- : 作業の際には適切な保護具(保護手袋、防護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。
 : 漏出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
 : 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸着させて回収する。
 大量の流出には盛り土などで周囲を囲って流出を防止する。
 : 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。
 : 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 : 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
 : 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をすること。

7. 取扱いおよび保管上の注意
 取扱上の注意

- : 換気の良い場所で取り扱う。
 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
 : 周囲で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
 : 裸火、高温物、発熱体に向けて噴霧しないこと。
 : 静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
 : 工具は火花防止型のもを使用する。
 : 作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
 : スプレーダストや製品が付着した布、紙、ローラーなどが積み重なると自然発火する恐れがあるので、廃棄するまで水に漬けておくこと。

保管上の注意

- : 幼児の手の届かない所に置くこと。
- : 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
- : 通風の良いところに保管する。
- : 火気、熱源から遠ざけて保管すること。
- : 40℃以上になる所には置かないこと。
- : 水回りや湿度の高いところに保管すると、容器腐食して破裂の恐れがあるので保管場所に注意すること。

8. 暴露防止および保護措置(1)

管理濃度
許容濃度
日本産業衛生学会
ACGIH(2012年版)

米国産業衛生協議会
(ACGIH 2005 TLV-TWA)

管理濃度、許容濃度としては設定されていないが、主成分溶剤に0.3~3.0含有されるノナンについて以下に示す。

- : 設定されていない
- : 200ppm(1050mg/m³)
- : 200ppm(TWA)
- :
- : プロパン 設定されていない
- ブタン500ppm
- ペンタン300ppm
- : プロパン 1000ppm
- ブタン 800ppm
- ペンタン600ppm

8. 暴露防止および保護措置(2)
設備対策

- : 取り扱い設備は防爆型を使用する。
- : 換気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
- : 取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
- : 屋内塗装作業の場合は、自動塗装機等を使用するなど作業者が直接暴露されないような設備とすること、局所排気装置等により作業者が暴露から避けられるような設備にすること。
- : タンク内部などの密閉場所で作業をする場合には、密閉場所、特に底部まで十分に換気が出る装置を取り付けること。

保護具 << 目の保護具 >>
<< 皮膚の保護具 >>
<< 呼吸器系の保護具 >>

- : 取り扱いには保護眼鏡を着用すること。
- : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない手袋を着用すること。
- : 有機ガス用防毒、空気呼吸器、密閉された場所では送気マスクを着用する。
- : 密閉された場所では送気マスクを着用する。
- : スプレー作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。
- : 作業中は飲食、喫煙をしない。
- 取扱後は手をよく洗う。

<< 適切な衛生対策 >>

9. 物理的および化学的性質

	原 液	ガ ス	
状態	: 液体	プロパン	
色	: 無色透明~黄色透明液体	融点・凝固点	: -189.7℃
臭気	: 特異臭	沸点、初留点及び	: -42℃
pH値	: データなし	騰範囲	:
融点	: データなし	引火点	: 104℃
沸点	: 153-180℃(イソパラフィン炭化水素)	燃焼範囲(爆発範囲)	: 下限1.4% 上限9.5%
引火点	: >40℃(イソパラフィン炭化水素)	蒸気圧(40℃)	: 1.275MPa
発火点	: データなし	ガス比重(空気=1)	: 2.5
爆発限界	: (下限) 0.7 % (上限) 5.6 %	液比重(水=1)	: 0.5
蒸気圧	: 0.195kPa(20℃)	溶解度(20℃)	: 0.0061g/ 100ml
蒸気密度	: 5(イソパラフィン炭化水素)	n-オクタール/	: 2.36
密度(比重)	: 0.75(25℃)	水分分配係数(log Pow)	:
溶解性	: 水に難溶	自然発火温度	: 309℃
n-オクタール/水分分配係数	: データなし	その他のデータ	:
分解温度	: データなし	(分子量)	: 44.1
自然発火温度	: 365℃(イソパラフィン炭化水素)		
分解温度・動粘度・その他のデータ	: データなし		

10. 安定性および反応性
安定性

40℃以上になると破裂の恐れがある。
常用温度で缶内圧は約0.42MPa。

危険物有害反応可能性

: 酸化剤との接触、着火源、混触危険物質との接触を避ける。

その他の有害性情報

: 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。
: 樹脂成分は空気中で酸化し、発熱、蓄積される条件があると自然発火する恐れがある。
: 加熱分解により窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素等の有害なフォームを発生する。

11. 有害性情報(1)

製品としての試験の実験は実施していない。

	急性毒性 (経口mg/kg)	急性毒性 (経皮mg/kg)	急性毒性 (吸入: 蒸気)	急性毒性 (吸入: 粉塵)	皮膚腐食性/ 刺激性	眼損傷性/ 刺激性
原液	区分外	区分外	データなし	データなし	区分3	区分2B
LPG	分類できない	分類できない	区分外	分類対象外	分類できない	分類できない
	皮膚感受性 呼吸器感受性	生殖細胞 変異原性	発がん性	特定標的臓器 (単回曝露)	特定標的臓器 (反復曝露)	吸引性呼吸器
原液	データなし	データなし	データなし	データなし	データなし	区分1
LPG	分類できない	区分外	分類できない	区分3(麻酔作用)	分類できない	分類できない

12. 環境影響情報 製品としての試験の実験は実施していない。 データなし

	水性環境急性有害性 区分2
原液	生態系に関する追加情報: 知見なし
	イソパラフィン炭化水素のデータから区分2とした。

☆ 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので取り扱いに注意すること。
特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

- ・ 生殖毒性 : データなし
- ・ 残留性 : データなし
- ・ 残留性・分解性 : 良分解性(防錆成分)分解性あり(イソパラフィン炭化水素)
- ・ 生態蓄積性 : データなし
- ・ 土壌中の移動性 : データなし
- ・ オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

- 廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。
- 残余廃棄物 : 廃塗料、容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
: 容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
: 排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。
: 廃塗料などを処理する場合には、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。
- 汚染容器及び包装 : 中身を使い切ってから分別廃棄する。

14. 輸送上の注意

- 共通 : 取扱い及び保管上の注意の項に記載に従うこと。
: 容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
- 陸上輸送 : 運搬に際しては、容器を40°C以下に保ち、転倒、落下、損傷が無いように注意すること。
: 消防法、労働安全法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。
- 海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。
- 航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。
- 国連番号 : 1950
- 国連分類 : IMDGコード class2.1

15. 適用法令

- ☆ 化審法 : 非該当
- ☆ 労働安全衛生法 : 危険物 : 引火性物質、可燃性ガス
- ☆ 高圧ガス取締法 : 適用除外項目対象 : 液化ガス、可燃性ガス
- ☆ 消防法 : 第四類第二石油類(非水溶性)
- ☆ 有機溶剤中毒予防規則 : 該当しない。
- ☆ 労働安全衛生法 : 第57条 表示対象物質ノナン
- 第57条名称表示物質 : 第57条の2 通知対象物
- 第57条の2 通知対象物
- ☆ 航空法 : 危険物 高圧ガス(エアゾール)引火性液体
- ☆ 船舶安全法 : 危険物 高圧ガス(エアゾール)引火性液体類
- ☆ 危険物船舶運送及び貯蔵規則 : IMDGコード class2.1(UN.No.1950)
- ☆ 水質汚濁防止法 : 油分排出規制(5mg/L許容濃度)
- ☆ 廃棄物処理法 : 特別管理産業廃棄物

16. その他の情報

引用文献:化審法 既存化学物質 ハンドブック第4版 化学工業日報社
GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(JIS Z 72 53:2012)
問い合わせ先:旭エンジニアリング株式会社
管理部 TEL:06-6452-5811 FAX:06-6452-5770

※ 記載内容は現時点で入手可能な資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、化学製品を安全に取扱うための参考情報として提供されるものであり、安全を保証するものではありません。また、記載内容の含有量、物理化学的性質等についても保証されるものではありません。
この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。
すべての化学製品には未知の有害性が考えられますので、取扱いには細心の注意が必要です。
ご使用者各位の責任において安全な条件を設定下さるようお願い申し上げます。